資料２

令和５年度第１回千葉市市民自治推進会議における各委員の意見（抜粋）

委員名	ご意見（議事録の掲載ページ）
（１）評価をすること自体について	
山本俊子委員	・元々この話が出たのは、実施状況のその先、「だからどうなの」を知りたい、ということでは。「評価」と言った瞬間に、定量とか定性とか公平性とかが出てきてしまうが、そもそもキャラクターも内容も違う様々な事業を公平に見ることに無理がある。何らかの指標をもってという、「評価」という言葉のイメージから一回離れて、その結果がどうなったのかを知りたいのだという言い方に変えてみると、方向性が変わるのではないか。（P6）
浦本委員	・私たちは傾向が知りたいだけだと思う。データとして千葉市はこういう状況にある、だからこうしていきたい、という建設的な議論をするための材料としてあるべきであって、そこを評価というから違ってくるのでは。指標は傾向を知るための材料として活用するのが良い。（P10）
眞智委員	・私の記憶では、他の公募委員の方を中心にこういう評価をしたほうが良いのではないかという意見があったと認識している。取り組みの進捗が見えるものはあったほうが良いとは思うが、皆さん仰るとおりできるものからやって、一斉に全部やるのは無理ではないか。（P8） ・R4実施状況と評価の方向性とはリンクしているのではないか。（P4）
西田委員	・良い事例を発信していければ評価は不要で、みんなが知恵を授けてもらって、それを実行できる、というようなきっかけをいっぱい作ることができる。市民自治推進課も私たち委員もどのようにそれを応援していくか、ということに視点を変えてみると、面白くなるのでは。（P10）
蟹江委員	・長い間こういう習慣で進めてきたと思うが、目玉になる項目を、予算をかけて取り組んでこうなったという結果を報告してもらい、我々がそれに対して論評を加えるという方向性がよい。（P6） ・あまりこういう形の評価は必要なく、それぞれの所管が責任をもって、市民自治推進のためにこれに力を入れているとか、こういった結果が出たとか、報告していただいたほうが我々も議論はしやすい。（P7）
林委員	・市民自治の推進に係る事業は庁内全ての部局から集まっているので、我々が評価ＢとかＣと評価したときに、全庁的に納得し得るのか心配である。（P6）
玉木委員	・第三者の公平な評価ということも確かにあるかもしれないが、これだけの数があるのだから各所管が評価・検証し、自分のところでうまくいかなかったから、次はこうやり替えよう、という良い機会に使っていくということが良いのではないか。そういった仕組みが上手く回っているかということを、我々は見てあげるだけなのかなという気がする。（P10）
（２）ア　評価指標について	
蟹江委員	・こういう施策を展開してどういう効果が得られたのかと、これはもっと見直すべきではないかというような視点で見たい。（P6）
浦本委員	・一つ一つの事業で個別に指標を作るのであれば、もう少し分析をしてから指標を作ったほうが良い。（P5） ・ここではもっとマクロで見たほうが良い。毎年この場でマクロで見て、次の年度はこうしましょう、その結果どうなりましたという話ができたほうが良いと思っているので、マクロ指標はあったほうが良いが、年度比較はちょっと違うと思う。（P9） ・ＫＰＩは別に毎年変えても良いのでは。年度ごとに、今回はここを集中してやりたいのでここを数字としてみましょう、とやっていくのは良いと思っている。（P9）
浦本委員（再掲）	・私たちは傾向が知りたいだけだと思う。データとして千葉市はこういう状況にある、だからこうしていきたい、という建設的な議論をするための材料としてあるべきであって、そこを評価というから違ってくるのでは。指標は傾向を知るための材料として活用するのが良い。（P10）
髙橋委員	・良い事業をどうやって見つけるか。浦本委員の仰ったようなＫＰＩは出したほうが良いのかなとか、全く数字を無視しろということでもないのかなと思う。市民自治推進課も委員の意見を汲んでこういう評価基準のようなものを出したと思うので、そこを考えておいた方が良い。（P11）

令和５年度第１回千葉市市民自治推進会議における各委員の意見（抜粋）

委員名	ご意見（議事録の掲載ページ）
（２）イ　個別の指標について	
浦本委員	・ちばレポは一部のユーザーが非常に多くのレポートを送ってくるので、困ったレポート数が増えても協働する人はあまり増えていない。それではあまり指標として意味がなくなってしまうので、どちらかというとこれはレポートしているユーザーが月に何人いるかという指標にしたほうが絶対に良いと思う。（P5）
眞智委員	・ちばレポも数が増えれば良いというものでもないが、まちに関心を持つとか、そういうレベルでは、推移というのは評価の仕方としてはそれなりに活用できる。（P8） ・避難所運営委員会は設立数よりも補助金執行団体数（や執行率）の方が良いのでは。（P8） ・パブコメは（意見数に差がありすぎて）評価にふさわしくない。（P8） ・地域運営委員会は、市民の主体的なまちづくりという点で市民の主体性が問われているところだと思うので、そこを評価するということになると、行政がどれだけテコ入れするかということにも関わってくるのではないか。「事業協力」という区分であれば行政が主導できると思うが、そういった事業の位置づけを考えていかないと、今の指標にしても、市民だけではどうにもならないところもあると思うので、そのあたりは検討してもらいたい。（P12）
（２）ウ　評価手順について	
青柳委員	・第三者が評価するのはとても難しいので、当事者である各所管で評価する事を前提としながら、評価軸はこちらで設定する必要があるし、一つ一つの評価に対してのレベル感も文章化して提示できたら良いが、非常に難しい要求だとも思っている。それが難しいようであれば、何が変わったのかをもう少し端的に示していただく形でも良いと思う。（P7）
玉木委員	・前年度との数字の比較がベースになっているが、そういうことではなく、活動を設定した当初の目標に対し、狙った成果が出たかどうかが一番重要な事で、そこが評価できれば良いのではないか。（P4） ・計画したものに対する評価ということであれば、計画したときに目論んだものがどのようになったかを評価すべきという話をしたが、これだけたくさんの事業があって、それを一律にはめ込むのは非常に難しい。（P10）
浦本委員（再掲）	・ここではもっとマクロで見たほうが良い。毎年この場でマクロで見て、次の年度はこうしましょう、その結果どうなりましたという話ができたほうが良いと思っているので、マクロ指標はあったほうが良いが、年度比較はちょっと違うと思う。（P9）
山本俊子委員	・市民自治指数のようなものの値が高いか低いかはここで論じられるのでは。ここで評価するのであればそれは市民自治推進の観点での評価だということを明確にしていかないと、ここでＣ評価がついたからこの事業がダメという印象を与えるのはとても危険である。（P8） ・いろいろなジャンルのいろいろな部署がやっているいろいろな活動を市民自治の尺度で見たときの評価を出してしまうと、違う見方が発生してしまう、それが折角の活動の足を引っ張るものであってはいけないのではないか。（P11）
林委員	・定量的に評価したものに定性的評価を加えるという手法は良い。（P6） ・定量的な部分は有意差があるのかどうかというのが素人にはよく分からない。一つでも多ければＡにするとなると定量的な部分というのはどうなのかと感じる。（P6） ・特に定性的な部分は、もっと分かりやすく分析がないと正確性を欠くのでは。（P6）
蟹江委員	・もっと所管が力を入れている施策をはっきり出していただいてそれを評価する方が良いのではないか。（P7）
鈴木委員	・みんな考え方が違うから、それをまとめるのは至難の業で、評価は難しい。私が個人的に評価するのは良いが、これだけ膨大な書類を出されて私は何を評価すれば良いのかはよく分からないと感じる。（P8）

令和５年度第１回千葉市市民自治推進会議における各委員の意見（抜粋）

委員名	ご意見（議事録の掲載ページ）
（３）ア　評価主体について	
青柳委員	・各々の事業自体にはその部局で目指しているものがあって、そのためにやらなければいけないものがあるから、市民自治推進という観点から見たときに、提示されたいくつかの評価軸に対して、当事者がチェックをして報告させるというのはすごく大変。市職員は一つの事業に対してのＰＤＣＡサイクルを実施していると思うので、やるのであれば、市民自治推進ということに照らしてそれぞれの事業をご自身で評価して下さいとやらざるを得ない。（P7）
髙橋委員	・各部局で自分の事業の評価をするのは良いことだと思っている。各部局でも市民自治というものに対して意識をつけるためにも、（各部局で）考えていった方が良いのではないか。（P8） ・市民自治推進課での定性評価も一回やってみてどんな化学変化が起こるかを見てみたい。やってみておかしいところは直していけば良いのではないか。（P8） ・コロナになって、オンライン会議のツールなど便利なものを使えるようになった世の中の流れを考えながらやっていくのも良いのではないか。（P8）
玉木委員	・評価主体がこの会議なのは違う。（P5）
山本俊子委員	・（各事業の所管課が評価するのは）所管課が大変。（P7）
林委員	・各所管課を所轄する市議会の常任委員会に意見をもとめる。条例制定の前段階で、議会のほうから意見がありましたが、やや消極的であった記憶があります。市政を監査する観点からも、議会に参加を促す、という、アプローチがあってもよいのでは？（後日意見） ・所管課に自己評価をしてもらい、それを我々（場合によっては市議会を含めて）が横断的に判断する。つまり、２段構えの方法もあるのでは？（後日意見）
（３）イ　評価結果の検証について	
青柳委員（再掲）	・第三者が評価するのはとても難しいので、当事者である各所管で評価する事を前提としながら、評価軸はこちらで設定する必要があるし、一つ一つの評価に対してのレベル感も文章化して提示できたら良いが、非常に難しい要求だとも思っている。それが難しいようであれば、何が変わったのかをもう少し端的に示していただく形でも良いと思う。（P7）
山本俊子委員（再掲）	・市民自治指数のようなものの値が高いか低いかはここで論じられるのでは。ここで評価するのであればそれは市民自治推進の観点での評価だということを明確にしていかないと、ここでＣ評価がついたからこの事業がダメという印象を与えるのはとても危険である。（P8） ・いろいろなジャンルのいろいろな部署がやっているいろいろな活動を市民自治の尺度で見たときの評価を出してしまうと、違う見方が発生してしまう、それが折角の活動の足を引っ張るものであってはいけないのではないか。（P11）
玉木委員（再掲）	・第三者の公平な評価ということも確かにあるかもしれないが、これだけの数があるのだから各所管が評価・検証し、自分のところでうまくいかなかったから、次はこうやり替えよう、という良い機会に使っていくということが良いのではないか。そういった仕組みが上手く回っているかということを、我々は見てあげるだけなのかなという気がする。（P10）
林委員（再掲）	・市民自治の推進に係る事業は庁内全ての部局から集まっているので、我々が評価ＢとかＣと評価したときに、全庁的に納得し得るのか心配である。（P6）
髙橋委員（再掲）	・各部局で自分の事業の評価をするのは良いことだと思っている。各部局でも市民自治というものに対して意識をつけるためにも、（各部局で）考えていった方が良いのではないか。（P8）

令和５年度第１回千葉市市民自治推進会議における各委員の意見（抜粋）

委員名	ご意見（議事録の掲載ページ）
（その他のご意見１）良い事例の発信について	
西田委員（再掲）	・良い事例を発信していければ評価は不要で、みんなが知恵を授けてもらって、それを実行できる、というようなきっかけをいっぱい作ることができる。市民自治推進課も私たち委員もどのようにそれを応援していくか、ということに視点を変えてみると、面白くなるのでは。（P10）
髙橋委員	・西田委員の仰った、良いものはどんどん発信していこうということは良い。ただし、良い事業をどうやって見つけ出すかが残ってしまう。各部局に良い事業を出してもらおうとすると、声の大きいところが見えて、実際にあまり発信していなかったけどすごく良い事業を見逃すのももったいないし、どうやって見つけるかに戻ってしまう。（P11）
玉木委員	・良い取組みをもっと紹介するということももちろんあってよい。（P10）
（その他のご意見２）市民自治推進のための実施計画／実施状況について	
西田委員	こういう形でまとめていただいたが、どういう意味があるのかがよく分からない。実施の有無は一覧で良いが、その中で良い動きが出てきたら紹介するなどがないと、ただ実施したとか、実施しないとか、コロナで実施できませんでしたという話で終わってしまう。何がどう動いたかが一つも分からず中身が伝わらないのはちょっと残念ではないかと思う。（P3）
髙橋委員	・（市民自治推進の観点に照らし）良い事業は良いと言って良いのではないか。（P7）
眞智委員	・事業は玉石混交で、市民自治推進課などから何か市民自治の取組みをやってくれと言われて、やらされてやっているところは、目的意識とかそういうものがどこまであるのかなと思う。（P8）
山本会長	・実施計画・状況がこれだけの分量になると個々の事業はわからず、市民自治が進んでいるか我々にとっても市民にとっても見えづらい。（P9）
蟹江委員	・実施計画・状況の中で各所管が非常に力を入れているとか、これはちょっと考えたほうが良いとか、そういうことは精査できるので、予め事業をピックアップすることはやめたほうが良い（P9）